

中国大連金州区マーイー島調査報告 「離島」という形の人間環境に関する考察

李

桓*

A Report on a Survey at Mayi Island in Jinzhou Area, Dalian, China A Study on Human Settlements in Islands

Li Huan

1. はじめに

離島は陸上の交通から分断され、海に囲まれる。規模の小さい島の場合は資源に限られることも少なくない。このような特殊な環境における人間の居住は、社会や生活は他の地域と違った性格とあり方をもつ。厳しい自然条件を乗り越えるために、社会の結束力が求められる。限られた資源を有効に分配するために、平等で互助のある精神も必要となる。海の仕事を主とする離島の場合は、船を道具とし、海で広い行動をする。このような生活スタイルで形成された人間同士の間柄は、土地を緻密に営む農耕社会とは違う性格を持つ。離島という特殊の環境における人間の社会と生活を研究することは、人間環境学の一つの課題となりうる。また、離島振興における新たな知見を得るためにも重要である。

本稿は中国大連金州区マーイー島（中国語では「媽蟻島」と表記）に関する調査報告である。島における居住生活の現状を明らかにしながら、そこにおける社会と生活のあり方を離島という特殊の環境条件と関連付けて検討を加えたい。

本研究に関する実地調査は、科学研究「離島における居住福祉の成立条件に関する研究」(代表者

早川和男教授)の一環として、2001年9月中旬に行われたものである。調査メンバーは早川和男教授、伴丈正志助教授、大学院生艾麗晶氏(以上本学)、柳中権教授、大学院生沈麗娟氏(以上中国大連理工大学)および筆者である。今回の調査は複数の調査地と調査内容が含まれており、マーイー島に関しては、9月15日から18日までの3日間で行われた。

なお、本調査に関する報告は「中国大連・マーイー島における季節集団移住——居住形態とコミュニティの役割」(発表者艾麗晶、伴丈正志、早川和男)という題名で、2002年度日本居住福祉学会全国大会(鳥取市)で発表されている。本稿は調査で明らかになった自然、社会、居住と生活などの諸側面を詳細に記述し、人間と環境との関係の解明にウェイトを置く。

2. マーイー島の概況

マーイー島は大連市金州区大魏家鎮の行政下の1村落である。大陸につながる金州区大魏家鎮の海岸から約7km離れ、渤海の中に立地する小さな島である(図1)。

マーイー島と呼ばれる島は東西の2島があり、両者は約500メートル離れている。東マーイー島に

* 人間環境学部 環境文化学科 助教授
2002年6月17日受付

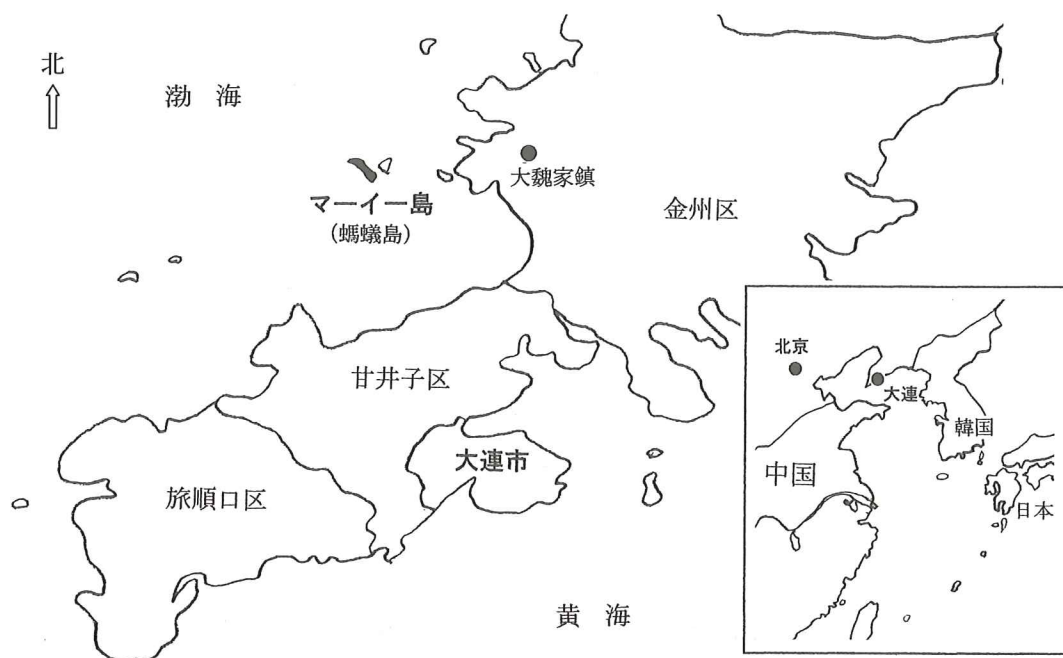


図1 マーイー島の地理的な位置

水源がなく、人が住んでいないため、今日一般的にいう「マーイー島」とは西マーイー島のことである。本研究もこれと相違しない。

中国語でいう「螞蟥(マーイー)」とは「アリ(蟻)」の意味である。この島が「マーイー島」と呼ばれる理由は、遠くから眺めると、島が細長く、盛り上がりへこんだりしており、アリの姿のように見えるからという。マーイー島は幅1km弱、長さ約3.5kmで、東南から北西に伸びるような形となっている(図1)。

集落は島の東側のなだらかな斜面に立地し、幅約200m、長さ約500mの範囲に広がっている。集落の東側は海に面し、西側は「老瑩頂」という山の斜面が広がる(写真1)。村から東へ望むと、手前に東マーイー島が見え(写真2)、背後には金州湾大魏家鎮の山々が、天気良ければ、彼方に見える。このように、集落と大陸とは向かい合い、遠方から望むというような形となっている(図2)。

村の歴史は400年あまりだという。山東省からやってきた「陳氏」と「王氏」の両家が島に住み

写真1 南側の高所から集落を一望
(左側は「老瑩頂」という山、右側は海と港)写真2 「老瑩頂」から東側を望む
(海を隔てて、手前に見えるのは東マーイー島)

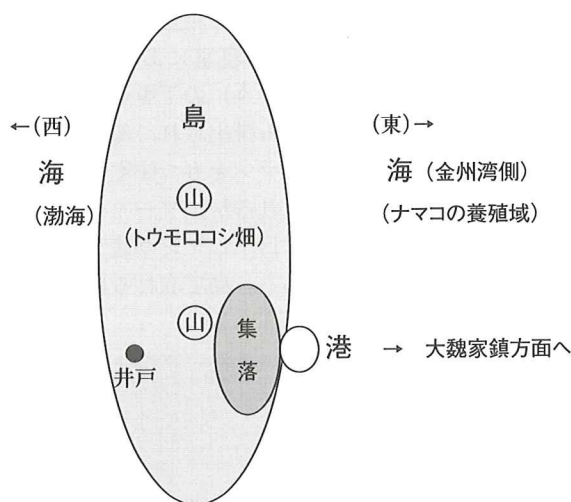


図2 マリー島集落立地概略図

着き、以来島の生活を営んできた。現在でも村は主に「陳」と「王」の2つの名字の人々で構成され、戸数73戸、人口230人あまりである。陳氏と王氏のそれぞれの比率は、陳氏の方がやや多く、約7割だという。陳という名字の人は村の南半分に居住し、王という名字の人は村の北半分に居住する。名字による住み分けが見られる。

村の年齢構成は、主婦層約50人あまり、労働力となる青年と中年の男性約50人あまり、子供（学校通い及びそれ以下）約50人あまり、60歳以上の高齢者役50人あまりだという。ほかに、島の外からの出稼ぎ者が20人ほどいる。

村の産業は、漁業を中心とし、中でも滋養強壮の効果があるとされ、人気の高いナマコ（中国では「海參」と言い、海の人参とされる）を主要な水産物として出荷し、高い収益が得られている。ヒアリングによると、この島の一人あたりの平均年収は1万元（1元約日本円15円）を超えている。この数字は大連市の行政圏でトップレベルだという。ちなみに、現在の中国の年間平均収入は、都市部では5000元弱で、農村部ではわずか1500元である。

3. マリー島の居住

(1) 集落の空間構成及び公共基盤

●**住宅配置** 住宅はほとんど同じづくり方と配置パターンで、高さや色彩も統一されている。社会地位や経済地位の格差を感じさせるような目立った住宅はなく、平等社会という印象を受ける。住宅の配置は、東西方面で約5～6棟がほぼ直線状に並び、行列をなし、南北方面においては、行列をなしている住宅グループが、一定の間隔をとりながら配列される。

●**道路と広場** 道路は東西と南北方向に沿ってつくられ、主要な部分はセメントで整備されている。東西方面の道は、一列に並ぶ住宅と住宅の間を通り、南北道路は各住宅列の間に走っている。

南北方向の道路は海側と山側の2本ある。海側の道路は港につながり、山側の道路は山の斜面に広がるトウモロコシ畑や墓地などにつながる。したがって、南北方向の道路は、集落内で各住宅列を連携する役割のほか、居住域とまわりの地域（生産域や墓地など）をつなげる役割があると見られる。港の前は広場となっている。

●**用水と下水** 村の生活用水は主に雨水を利用している。集落には井戸はあるが、塩分が強いため、家畜の飼料づくりや食器と野菜の洗い以外に利用できない。島で1ヶ所のみ淡水の井戸があるが、「老瑩頂」という山を越えて集落の反対側にある（図2）のため、雨水利用が普及した現在では、ほとんど利用されていない。

雨水利用の方法は、屋根に降ってきた雨を雨樋で庭の一角にある地下貯水槽に集め、一定の消毒を施してから年間通して使う。その水は井戸水の「塩水」に対して、「甘水」と呼ばれている。このような雨水利用の技術による水問題の解決に対し、村人は非常に満足している。

一方、下水の整備はなされていない。トイレはドライ式のものである。生活からの排水は、家畜や畑にまわしたり、地面に捨てたりして、適当に処理されている。風呂設備はなく、行水はあまり

なされないため、水の消費量は少ない。

●電気 村の山側の一角に小さな火力発電所がある。発電の時間帯は朝の11時から昼1時、そして、夕方6時から夜11時までだけで、そのほかの時間帯は、電気なしの生活である。

(2) 住宅の構成

●敷地 住宅の敷地はほぼ矩形で、入口は南側に設けられる。主要な住宅（母屋にあたる）は敷地の北側に、付属の建物は西側の配置される（図3）。敷地を囲む塀は目のあたりの高さで、それを超えて東側へ望むと、海が見える。敷地の配置は海を意識したと見られる。

庭には畑がつくられ、その下に、広さ約2m四方で深さ約2mの雨水貯水槽が設けられる。付属の建物の南側に、トイレと家畜の部屋がつくられる。

付属の建物は主に物置や保存食品の貯蔵に使われ、そこにある寝室は来客のために用意されている。母屋が切妻であるのに対して、付属の建物は平屋根で、その上は穀物の干場として使われる。

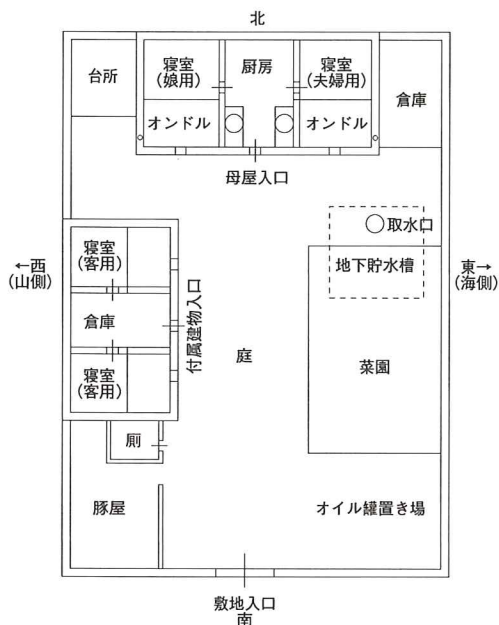


図3 陳さんAの家の平面

●住宅 住宅（母屋）は間取り3間式の平屋で、真中を台所とし、両側の部屋を寝室とする。台所で燃やした熱い煙は両側の寝室にあるオンドル（中国で「炕」(カン) という）の下を通して両側の外壁の中にある煙突から排出され、部屋が暖まる。これと同じようなプランをもつ住宅は中国北部の寒冷地方に多く見られるが、マーイー島の住宅の特徴は、外壁や塀は日干しレンガ造りの住宅ではなく、石づくりである。島で取れる自然の石が利用されている（写真3～5）。

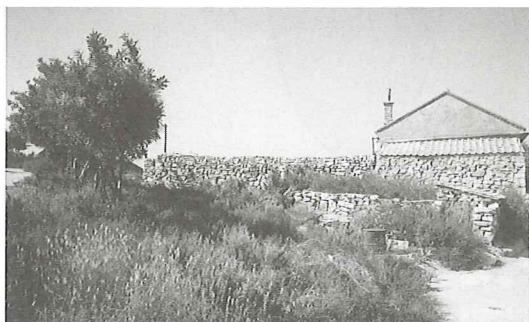


写真3 住宅の外観（東より望む）



写真4 母屋の外観（西南より望む）



写真5 庭の様子

4. 村の集落自治とコミュニティ生活

(1) 村の集団自治

マーイー島は、生産形態は集団による共同作業であり、個人の収入は村全体の収益から給料という形で分配される。村の管理と運営は強い集団自治の形を形成している。中国の多くの農村で行われていた土地の私有化のような改革はここでは無縁で、ここは、過去も現在も、海の仕事を集団で行う。集団自治の力は、多くの側面において発揮されている。例を挙げると次のようなものがある。

●**選挙** 村長や村の幹部は選挙を通して、村民の合意の下で選ばれる。

●**環境整備** きれいに整備された道路はまず村の行政の力を物語る。

数年前に導入された雨水利用も村の推進で、各家庭の整備にかかる費用の6割は村の出費である。

電気は、1日約7～8時間しか供給されていないが、発電にかかる費用はすべて村の行政負担となる。年間30万元にのぼるといふ。

●**医療** 村には診療所が1箇所あり、島外から招いた医者1名が日時に関係なくここに常住し、村人の診療に対応する。医者の給料は村から配給される。村民の医療費は薬代のみである。

●**高齢者** 高齢者に対しては生活補助が行われている。60代には年間1000元、70代には年間2000元の養老金が与えられる。ほかに、生活面では、例えば年間、米50キロ、小麦粉50キロ、暖房費600元、プロパンガス2罐、シーツ、蒲団、季節の果物などが与えられる。

筆者が出会った75歳ぐらいの陳さんは、50代のときに事故で両足を骨折し、歩行困難となった。以来、村からの援助を受けながら、娘の世話のもとで生活してきた。このように高齢者の生活は村に支えられ、高齢者は村に対する依存度が非常に高い。

●**教育** 島には小学校が1ヶ所あるが、廃校となっている。島の学童はすべて島外の大魏家鎮にある学校に送られる。子供たちは寮生活をし、週

末に島に帰る。教育にかかる諸費用はすべて村が出しているという。大魏家鎮にある学校の敷地の一角に、村の出資で建てられた食堂付きの寮がある。そこに数人の保母が専門的に子供たちの生活を見ている。子供が学校から島に帰る時の客船の運賃は無料である。

(2) 生活風景にみる社会の調和

集落の道路や広場の所々に、人々が集まり、仕事をしながらお茶を飲んだり、歓談したりするような生活風景が日々見られた。年齢や性別に関係なく、仕事（網を直すなど）や遊びの区別もない。女性なら野菜の下ごしらえをしながら、男性なら船の機械関係の修理をしながらである。若者は時々テーブルを囲んでトランプをし、小さな子供たちは大人の周囲で走り回る。このような平等、安定、調和、快樂といえる生活風景は非常に印象的である。我々の調査に対して、村人は常にフレンドリーで、お茶を出してくれる。明るい人間関係と和やかなコミュニケーションが見られた（写真6）。



写真6 広場で仕事しながら歓談する村人

5. 厳しい自然に与えられた課題とその対応

マーイー島にとって最大の課題は、冬場の12月から2月までの間、海が凍るといふ厳しい現実である。この3ヶ月間は、村人は島を出ることも、外から島に帰ることもできない。子供たちの学校

通いの問題は言うまでもなく、診療所で解決できない重病や手術が必要な場合は大変な問題である。冬に病気がかかりやすい高齢者や出産する女性にとって特に厳しい問題になる。これまで何度も過酷な局面に遭ったという。

この問題を抜本的に解決するために、村は大陸側の大魏家鎮での集団季節移住を決めた。大魏家鎮の港の近いところに土地を購入し、新村計画をはじめた。建設は2002年4月からという。新村は主に冬の3ヶ月間滞在するためのもで、春になれば再び島に戻って秋まで働き、過ごす。各家庭の新村の住宅を購入するための資金の5割は村から支援される。

季節移住という考えは、現在思いついたものではなく、昔からあったものだという。これまでも、個人的に行われていた。村ごとの季節移住が実現できたのは、改革開放政策のもとで村の経済が改善されたからだという。

新村への移住に関して何人かに意見を聞いた。若い人はほとんど何の抵抗もなく、将来を楽しんでいる人もいる。一部分の高齢者の場合は苦い顔をしながら、「やはり島のほうがいいよ」と話した。住み慣れた島への深い愛情がここであかがえる。

6. ま と め

以上、マーイー島における自然、居住、社会と生活風景などの側面を見てきた。ここから、マーイー島における人間と自然との共存の姿をある程度見ることができると考える。

マーイー島は一定の水産資源（ナマコ）に恵まれながらも、淡水が少なく、厳しい冬がある。そのような条件の中で村が集団生活を展開している。

マーイー島は資源もインフラも限られ、生活は決して便利とは言えない。しかし、そこで、悠々とした生活の姿が見られた。これができるのは、収入が高いという経済面での魅力のみならず、平等で互助のある共同社会ができているためと考え

る。島における居住、選挙制度、教育、医療、福祉、及び季節集団移住などの面からは、集団社会の高度のまとまりを見ることができる。ここに見られる集団の活力は、離島という自然条件と切り離せないと考える。

子供の教育に関しては、島の中で解決するよりも、島の外で解決の道を選ぶという点は興味深い。

今回の調査は短い期間で行われたもので、不十分な点がある。また、他の事例との比較の視点も重要である。これらは残りの課題として、今後さらに深めたい。

本研究に関する調査は日本学術振興会科学研究費助成金で行われた。研究代表者早川和男教授をはじめ、調査グループの皆様、調査に協力してくれた地元の行政関係者や村民の皆様に深く感謝したい。